



マンダレー市王宮



ミャンマーチーム

和

# ミャンマー・シンガポール

2019年7月12日～22日の11日間

CFNJ聖書学院

# アウトリーチレポート 2019

それから、イエスは彼らにこう言わされた。「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。」マルコの福音書 16章15節



シンガポールチーム



シンガポール独立記念の  
予行練習風景

# 目次



## ミャンマー

「新たな時代の到来を感じたミャンマーアウトリーチ」 鍛治川利文（学院長）  
「あなたは天地を超えて高く」 鍛治川紀子（副学院長）

「Romance Dawn 冒險の夜明け」 蒲谷結基（学生長）

「ハンセン病の人たちと膝の癒し」 山谷秀和

「心豊かで美しい国ミャンマー」 岩井裕美

「僕のやるべきこと」 栗原真実

「すべてに感謝しよう！」 浜田賢

「ミャンマーの光と絶え間ない喜び」 金子言葉

「ミャンマーでの人々の力強さ」 井上貴志

「ミャンマーでの時間は私の宝物」 井上保恵

「ミャンマーアウトリーチ全行程記録」

「ミャンマーアウトリーチアルバム」

## シンガポール

30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15  
14 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2

13

# 「新たな時代の到来を感じたミャンマー・アウトリーチ」

学院長 鍛治川利文



■2019年7月12日から22日迄の11日間、私たちはミャンマーのマンダレー市を中心にアウトリーチに行きました。今回、学院としては2009年以来、2度目の訪問となります。前回同様、今回もハッピーファミリー聖書学校の校長であるザム先生にお願いして、教会訪問、子供向けの伝道活動、学校の授業など様々な奉仕をさせていただきました。前回はまだ軍政の厳しい時代で様々な制限があり、訪問する教会や教えなども限られていきましたが、今回は民主化が進み、国自体の雰囲気も変わって、自由に奉仕をさせていただきました。10日間に10数カ所に訪問させて頂き、約17回の奉仕をさせて頂きました。何よりも以前の校舎は竹を組み合わせた建物だったのが、現在は立派なコンクリートの2階建ての校舎になり、少し離れた所に更に建築中の新校舎もあって、その発展ぶりに驚きました。「涙とともに種を蒔く者は、喜び叫びながら刈り取ろう。」(詩篇126篇5節)以前行ったときは、当時の軍政の元、ある日、校舎の土地を勝手にブルトーラーで削って行くなどの迫害があったそうです。その時はザム先生も涙をもって主に祈ったそうです。しかし、それから数年後には、その政府の方から謝罪に来たという話を聞きました。勿論、ミャンマー全体がそうではなく、地方の部族の中には未だかたくなに福音を拒絶したり、他の宗教に対する弾圧などの問題もありますが、確実に特に都市部から民主化が広がって、福音に対して心を開く人たちが増えていることを実感しました。10数年前までは、マンダレー市内にも数えるほどしか教会がありませんでしたが、現在は150以上の教会が増えているそうです。特に若者の中に福音が広がっているということを聞きました。今回、町中のオフィスビルの中にあるザム先生の弟さんが牧会されている教会を訪問しました。普段、平日は英語教室として活用し、日曜日に教会として開放しているその教会は、とても雰囲気が良く、スペースは狭いですが置かれている機器は最新のものばかりで、集っている人たちも若者たちが中心で、とても将来性を感じました。ミャンマーにも時代の先端を行

くような、新しいスタイルの教会が建ち上がっていて、若者的心をつかむような伝道が行われていることにこれからの可能性を感じました。人々は長い軍政による弾圧や貧困、仏教という伝統に縛られていましたが、ようやく新しい時代の到来を肌で感じているようでした。以前の大量の自転車通勤から、バイク通勤に変わり、高級車も見かけるようになりました。それに伴い、道も以前より整備されてきました。人々の生活も10年前に比べて格段に良くなっているように見えました。今、ミャンマーは新たな時代を迎えてます。そして、それに伴って福音も広がって行っています。「そこでイエスは弟子たちに言われた。『収穫は多いが、働き手が少ない。』」(マタイ9章37節)ハッピーファミリー聖書学校の学生たちが、次の時代のミャンマーを担う働き人として活躍していくことをとても楽しみに感じて、前回と違い、とても希望を感じることができたアウトリーチでした。受け入れてくださったザム先生やダニエルゴ夫妻、そして、トリニティチャーチの皆さん、又、訪問先の教会、そして何よりも、このアウトリーチの為にご支援してくださり、お祈りを持って支えてくださった皆様に心からの感謝を捧げます。シンガポールチームも含めて、全員が全行程を無事に終えることができたことを心から感謝すると共に、全ての感謝と讃れを主に捧げます。本当にありがとうございました。





# 「あなたは天地を超えて高く」

鍛治川紀子 アミエンゾンゴンターヤーアイヤカテードウテー

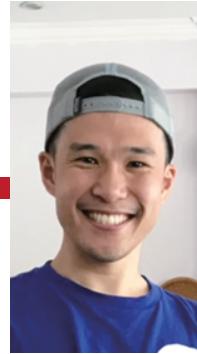
■主の御名を崇めます。今回のミャンマー・アウトリーチでは、日本と同じ、多数の仏教徒の国ミャンマーの至る所で、唯一の主の御名を高く掲げることができました。行くにも帰るにもとこしまでも守ると約束してくださった主は、眞実なお方ですから、今回のアウトリーチ期間、様々なアクシデントの中にあっても平安を与え、御言葉通り守ってくださいました。今年の初夢で、預言者を通し、「貴方は今年ミャンマーに行きます」と、明確に語られていたこともあり、出発前から私の心には何の不安もなく、むしろ喜びと期待しかありませんでした。美しい花束を持って出迎えてくださったハッピーファミリーバイブルスクールの学院長ザム先生と、ファミリーの皆さん、彼らはずっと私たちチームとともに働き、多くの犠牲を払って私たちに仕えてくださいました。トリニティチャーチを始め様々な枝教会で奉仕し、たくさんの神の家族にお会いできることも感謝でした。マンダレー、そしてハッピーファミリーバイブルスクールは10年前とは大きく変わっていて、その豊かさ、発展ぶりに目を見張りました。10年前は25くらいしかなかった教会が今では150を超えるほどにもなっていて、どの教会に行っても、そこには純粋に主を愛し、喜びに満ちた力強い賛美を捧げる輝いたクリスチャンがいて、その飢え渴きとへりくだつた姿勢から多くのことを学ぶことができました。我々、10名のチームワークも最高でした。主人と結基と眞実と秀さんはメッセージで用いられ、ケンケンは通訳と賛美で、ひろみんとやすえちゃんはチルミニとスキットと賛美で、ことちゃんは賛美と証とスキットで、貴志くんはスキットのイエス様役とマッショマンで、それぞれ大いに用いられました。私は英語での証を2回、日本語で1回、計3回の証と賛美で用いられました。最後の日本語の証では10年ぶりに再会した伊藤宣教師の長男雄基くんが通訳をしてくれました。成長した彼の姿に

感動を覚えるとともに、アウトリーチ後半ずっと、チームとともに仕えてくれたことは本当に嬉しく感謝な出来事でした。毎日35度～37度のマンダレーの暑さは、やはり、私にとっては辛いものがありましたが、袁れみによりクーラーの効いた車の中に避難しながらなんとか持ちこたえることができました。ただ、クーラーの効いた室内との温度差に体がついて行かず、着いて3日目に風邪を引いてしまい、咳も出て、眠れない夜もありました。病院に行かなくてはと思うほどでしたが、しかし、弱さの中にあっても神の恵みは尽きることなく、思いやりに満ちたチームのメンバーの愛と結基が持ってきていた風邪薬で回復が早まり、後半また、元気を取り戻して、さくらの踊りや賛美や証をすることができました。ただ、感謝するばかりです。これまで全てのアウトリーチに参加してきましたが今回のミャンマー・アウトリーチは、1日もオフデイのない、1、2を争うハードさと中身の充実したアウトリーチでした。全てを準備し、多くの時間と犠牲を払って仕えてくださったザム先生とハッピーファミリーの皆さんにはなんと感謝していいか、言葉が見つからないほどです。ですから、これら全ての背後にあって見守り導いてくださった神様に感謝と賛美と栄光をお返しいたします。最後にこのアウトリーチのために捧げ、とりなしてくださった皆様に、心からの感謝を捧げます。チーズーテインバーデー。ありがとうございました。



# 「Romance Dawn 冒険の夜明け」

蒲谷結基



■僕にとって最後の学院での時間がミャンマーでした。10人の仲間と共に過ごせた10日間はかけがえのない思い出です。この1枚の用紙には書き切ることが出来ません。漫画ワンピースのように仲間と共に冒険に出かけた海賊の航海旅みたいなアウトーリーでした。

船出は嵐でした。乗り継ぎトラブルでタイに一泊を余儀なくされました。この旅を本当にサタンは嫌がっているのだと感じました。しかし、仲間は誰一人文句を言わず、楽しみました！翌日マンダレーに到着すると神学校 HappyFamilySchool の校長であるザム先生と学生たちが迎えに来てくれました。初日から紀子先生とともに舞台に立ち、タンバリンを持ってサタンへ戦いの火蓋を切り、勝利のマイティーウォーリアーでスタート。ミャンマー語の賛美をし、証をし、スキットをし、僕はユースに向けて「ヨシュアとカレブの信仰」のメッセージをしました。若者は本当に燃えています！賛美がすごいパワフルでした。みんな飢え渴いて、靈性も技術も次元が違いました。

ミャンマーの宣教はとても難しく、アウトーリーと言っても教会内での奉仕がメインかと思っていました。しかし、この旧首都マンダレーはかつて200年前、ミャンマーに最初に福音を伝えたアメリカ人宣教師アドニラム・ジャドソンが活動した地域であり、彼の血の情熱と魂が今も生きていました。天が開かれている、私たちは大小の様々な教会、家の教会、ストリート、ハンセン氏病施設等、なんと計17回の集会で、仲間全員が福音のために戦いました。夜にはホテルの外のラウンジで、慣れないミャンマー語を覚えながら熱く賛美して祈って。僕は、2回の英語でのメッセージと1回の主日礼拝で福音を語るチャンスに預かることが出来ました。

HappyFamilySchool のザム先生たちご家族、スタッフと生徒との交流は宝物のような日々でした。本当に最高でした。初日のトラブルにも誰一人嫌な顔をせず、休みのない分刻みのハードスケジュールの中で、彼らは朝から

晩まで私たちと共にいました。福音のためにマンダレー中を回ったのです。その中で、学校の建設中の第二校舎を見せてもらいました。レンガが積まれ、コンクリートむき出しの校舎の屋上で、みんなを真っ赤な夕日が照らしました。ザム先生が熱いビジョンを話し、輪になって祈りました。夢を見させてもらいました。ミャンマーを変革する次世代を育て、光輝かせている先生の背中に感動しました。学校での最後の夜に、僕たちのために送別会をしてくれました。こんなに入って人を愛せるんだなって思いました。

最後に、忘れられないのは、この10人の仲間です。利文先生、紀子先生、ヒデさん、ひろみん、まさみん、ケン、こっちゃん、たかし君、やすえちゃん。色とりどり光り輝く花火のような最高な仲間、最高な毎日でした！みんなで乗り越えたこの10日間は一生の思い出です。夢と預言で導かれたミャンマーを去って、愛する仲間と北海道に別れを告げて、俺はまた新しい世界へ出航します。本当にありがとうございました！また冒険の途中で会おう！





# 「ハンセン病の人たちと膝の癒し」

## 山谷秀和

今回のアウトリーチは、私にとってすばらしい体験となったアウトリーチであった。今年のアウトリーチは、シンガポールとミャンマーに分かれた。私は、躊躇なくミャンマーを希望した。それは、遡る2017年10月18日のことであった。ダニエル先生ご夫妻がこのCFNJ聖書学院に来られたとき。奥様のメノーラさんから預言が与えられていたからである。「あなたは、健康と若さと今まで見たことのないエネルギーと勇敢さを与えられている。あなたは、特別な任務に立たされている。それは尋常ではない特別な任務が与えられている。特別な人のための任務で心の中にそれはもうすでに植え付けられている。訓練が終わったらその召しが開かれる。慈愛を強めてください。神様に対する愛が溢れ流れますように。失われていく魂のために涙する者である。」この預言は私をどれ程励ましてくれたか。ミャンマーに行けばメノーラさんに会える。そしてお礼を言いたいと思いミャンマーのアウトリーチに決めたのです。

今回のアウトリーチではメノーラさんには会うことが出来なかった。しかし、今回のアウトリーチの中盤の7月17日に村はずれの教会を行ったとき、その教会は、ハンセン病患者の集う教会であった。メッセージが終わりミニストリーに入った時、ハンセン病のクリスチャンの為に手を置いて祈ることが出来た。祝福はそれだけでは終わらなかった。なんと帰る途中にハンセン病患者の病院の病室を訪ねることが出来た。最初は話をしてはいけないとと言われたが、なんと賛美して、ミニストリーをして一人一人に手を置いて祈ることが出来た。中には足のない仏教のお坊さんもいたが祈ったら喜んでくれた。これは奇跡です。今回の私たちのお世話をしてくれたザム先生から、病院に行くのは難しい、ミャンマーの人たちも近づかないところで難しいと思っていたそうだ。しかし、メノーラさんの強い押しによって今回のミニストリーが実現した。私は、かつてハワイのモロカイ島という島に一人で行ったことがある。そこはベルギーの宣教師、ダミアン神父が宣教した島である。その島はハンセン病患者を隔離した島であった。宣教が難しかった中でダミアン神父もハン

セン病になる。そして島の人々の心が開かれりバイバルが起こる。ダミアン神父は死ぬ前に自分がハンセン病になったことを神様に感謝して天国に召されていった。そのダミアン神父の愛を求めてモロカイ島に行った。今でもハンセン病の人々が暮らしている。メノーラさんの預言を思い出した。自分の任務はこのような人々の為に働くのだと。

インワ町の教会に行った時のことである。大雨の後で川が氾濫して住居も浸水し、道も所々冠水して、たどり着いた教会で癒しの賜物を持っているおばあさんに膝の為に祈ってもらつた。膝があまりにも痛くて起こされたりして、痛み止めの薬を飲み続けていた。しかし、おばあさんの祈りの後、痛みが消えていた。それだけではなく、今まで飲んでいた痛み止めの薬が消えてしまった。その後、薬に頼ることなくアウトリーチを続けることが出来たことはとても感謝です。自分にも癒しの賜物が開かれているような感じがします。他にも今回のアウトリーチは、沢山のことを学ぶことが出来た。私にとって祝福のアウトリーチであった。また、機会があったらミャンマーに行きたいと思います。



# 「心が豊かで美しい国ミャンマー」

岩井裕美



私は今回初めての海外アウトリーチでした。ミャンマーチームは最初から最後まで慌ただしく、最初から最後まで恵みと祝福に満ちた毎日でした。

私は5回のチルミニに関わらせて頂きました。ミャンマーの子どもたちは本当に素直で笑顔がとっても美しくて、可愛くて、まっすぐな目をしていました。賛美する時もメッセージを聞くときもどんなときも笑顔で、キラキラした瞳でしっかりと見つめてくるそんな子供たちでした。この国は貧しいかも知れないけど、心は本当に豊かで聖くて、温かい優しい人たちで溢れている、

日本とは全く違うものがその場所にありました。チルミニを準備しているとき、やすえちゃんとマタイの福音書17章19節から20節を握りました。「それから弟子たちはそっとイエスのもとに来て言った。なぜ私たちは悪霊を追い出せなかつのですか。イエスは言われた。あなたがたの信仰が薄いからです。まことに、あなたがたに言います。もしからし種ほどの信仰があるなら、その山にここからあそこに移れと言えば移ります。あなたがたに出来ないことは何もありません」少しでも信仰の種を蒔くことが出来たら、この国を変えることが出来ると祈りつつ臨んだアウトリーチでしたが、もうそこにはからし種以上の力強い信仰の芽が育っていました。それはミャンマーを支配する偶像・悪霊を追い出し、神の国をもたらす次世代の新しい勇士たちの姿でした。

またハッピーファミリーの生徒たちとの交わりも最高の時間でした。一緒に学び、一緒に賛美し、一緒に遊び、一緒に食事し、何に対しても全力な彼らの姿に励されました。イス取りゲームやカレーを食べている姿がとっても可愛くて、めっちゃ盛り上がって、純粋な彼らが本当に愛しかったです。特に感動したのが、お誕生日会と送別会です。何か物を送ってお祝いする、送り出すのではなくて、本当に愛を与えること、自分たちが持てる全てを使って、神様の愛を現わすこと、ハッピーファミリーの人たちは名前の通り眞の神の家族でした。私たちのために似顔絵を描いてくれたり、ダンスや歌をプレゼントしてくれたり、心から私たちチームを歓迎し受け入れてくれてくださった彼らに、感謝しきれません。本当に神様の家族として彼らとつながれたことを誇りに思いま

す。

最後に何よりもミャンマーのユースたちの賛美にはとてつもない力があります。解放の賛美が溢れていて、彼らの礼拝する姿勢はとても美しいものでした。音楽的技術はもちろんのことですが、賛美の中での一致や、神様への飢え乾き、靈的戦いに勝利する力強い賛美でした。私たちチームも彼らの賛美によって解放され、どんな時も神様に賛美する、神様をほめたたえる、賛美の力をたくさん体験しました。チームみんなで軽トラの荷台にのって賛美し続けたこと、夜みんなで集まって賛美し祈り合えたこと、スケジュール的には最初からうまくいかず、タイにとどまったり、パンクして時間が押したり、トラブルはたくさんありました。が、賛美と祈りによって全てが益となりました。ミャンマーは貧しい国と言われているけれど、本当に内側はとても豊かで麗しくて未来がある国だと目で見て確信しました。どんなに厳しい状況であっても、私たちをもてなしてくださったミャンマーの方々から神様の愛をたくさん受け取りました。たくさん仕えてくださったザム先生・ご家族をはじめ、全ての出会いに感謝します。





# 「すべてに感謝しよう！」

浜田 賢

今回のアウトリーチは、いかなる時においても主は良いお方で、全ての状況を益としてくださる方であるということを実感出来た。言語も違い、人も違い、文化も違う、ミャンマーという異邦の地。そのようなところで、「本当に自分たちに何か出来るのか?」というのが最初に思っていたことだった。様々な出し物を用意し、他には賛美、メッセージ、証などを準備していた。でも内心、「本当にこれだけで彼らにとって何かよいものとなるのか?」「彼らにこのアウトリーチにかかるお金を献金する方がいいのではないか?」という思いがあった。振り返ってみて、先に結論から言うと、このアウトリーチは彼らにとっても恵みになり、そしてそれ以上に私たちにとって恵みとなったものだった。きっぱりこれを言えるのは、それはただ主が良いお方であり、すべてをなしてくださったから。这一点に尽きる。

様々なトラブルなしに語れないのが、アウトリーチである。そしてこのアウトリーチも勿論、例外ではなかった。初日から飛行機の乗り換えに失敗するというトラブルが起き、他にも紀子先生が体調を崩したり、メンバー内で喧嘩があつたりなど、いくらか予定外なことや予想外なことが起こった。しかし、今振り返ってみると、その中においても何ともいえない平安が心の中にあった。普通であつたら取り乱したりライラしたりするだろうが、祈られているという安心感、そして行くまでにあった祈り、それらのものが働いているのが目に見えるかたちで見れた。普通だったら文句やら不平不満が出てきてもおかしくない時に、むしろ主に期待することが出来た。この想定外の出来事によって、どのように神様が働くのか。どのように主の栄光を見ることが出来るのか。そのようにみんなが考えられた。それをまず体験できたのがすこかつたし、日常においてもそのような考え方で歩んで生きたいと思った。

今回のアウトリーチの中で一番印象に残ったのは、賛美だった。ミャンマーの現地の人たちは、みんな賛美の賜物で溢れていて、すごく感謝と喜びを持って賛美を捧げているのが身に染みて感じた。賛美、喜び、感謝という、この三点がこのアウトリーチにおいて欠けるところは無かった。まず、ミャンマーで最初に行つた教会、トリニティチャーチ、そしてこのアウトリーチで一番時を共に過ごしたミャンマーの神学校、

ハッピーファミリーのメンバーがこれらのことにおいて本当に油注ぎがあった。彼らは常に感謝の心を忘れずに、神様に賛美を捧げていて、自由時間などの時も賛美をしている様子が伺えた。そして、その姿を見て私たち自身も賛美、喜び、そして感謝に満たされたことが出来た。ミニストリーの時間は勿論、移動時間、休憩時間、自由時間に至るまで、神様に賛美をすることが出来た。その中で特に感じたのは、自由に神様を賛美することの重要性、そして楽しさだった。勿論、礼拝の時間、ミニストリーの時間、それらの中で神様を賛美することも重要で、すごく恵まれる。しかし、それと違った恵みが自由に賛美するときに与えられることが分かった。ただ決められた時間にだけ賛美をするのは、生き方ではなく宗教だが、ただ賛美をしたいから賛美をする、というのはもはや生き方であり、宗教ではなくなる。これがどれだけ違うのかは一目瞭然である。

「しかし、真の礼拝者たちが靈とまことによつて父を礼拝する時が来ます。今がその時です。」  
ヨハネの福音書4章23節

ヨハネの4章に書いてあるように、靈とまことのまことの部分が、満たされるキーがただの聖日礼拝への出席だけなく、日々の歩みだということを実際に賛美することによって、そしてミャンマーの現地の人を見ることによってまた再認識させられた。

ミャンマーのアウトリーチは本当に恵みの連続で、休みの日が一日も無かったにも関わらず、一度も倒れずに走り抜けることが出来た。そして、懸念されていた熱中症や腹痛なども特になく、万全の状態ですべてに臨むことが出来た。それ以外にも、色々とトラブルがあったにも関わらず、それらすべてが最終的には神様の栄光へと変わっていった。これらすべてのこととは、このアウトリーチに関わり、支えてくれた人々、そして神様の恵みなしではあり得なかつた。それらすべての恵み、そして祝福に、感謝です。



# 「僕のやるべきこと」

栗原 真実



私は始め、このアウトリーチに参加のアンケート「不参加」と書きました。その理由は、参加費が高額であること。1週間以上妻と離れてすごすことになってしまふから。他に使いたいお金の使い道や時間の使い方がある気がしたから。などなどでした。それにちょうどアウトリーチの1ヶ月前にシンガポールへ夫婦で旅行へ行き十分に海外を満喫してしまったから、もう海外は十分。という気持ちもありました。しかし、副学院長先生に、「もう一度祈つて考え方で欲しい。」と言われそうすることになりました。どちらにせよ、そのために全くお金を準備もしていなかったので、最終的にする返事は動かない気持ちでした。しかし、前回海外アウトリーチ参加者の証や、神様が備えてくださると言う証を聞く中で、「もしかしたら、神様はお金を備えてくださるかもしれない。」と思うようになりました。それから僕は神様から「お前は本当にアウトリーチに行きたいのか?」と聞かれ、「行きたいです。神様が計画されている神の御業を体験したいです。」と答えました。その結果、必要経費のほとんどが神様から多くの人を通して与えられ、アウトリーチへ行くことが決定しました。

神様が私にミャンマーの地で体験させてくださる神の御業はなんであるのか。神様に祈つて求めていました。始めはなかなか自分のやるべきことにフォーカスを置くことができずに、様々な心配に襲われました。スケジュールについてや、どんな必要を私たちが満たすことができるのか。など、自分の決めるべきこと、やるべきことを超えて、多くのことを心配し、わからないことに対してもイラライラしていました。しかし、神様は多くの出来事を通じて、私に今は自分のできることにフォーカスするように言されました。そして、アウトリーチに出発する前の集会において、「私はステージの上に立ち、目立つようなことはしない。人に立つことはないが、神の国を広げる大きな役割を果たす。」と言う預言を、ある人を通して神様は私に語られました。正直、あまりうれしくはない預言でした。私だってミャンマーの人たちに何か残ること、目に見えることしたいそう思いましたが、その預言を心に留めてアウトリーチが始まっていきました。

私のこのアウトリーチにおいて、一番の役割は、写真、ビデオなどのデバイスで記録を取ることでした。ミャンマーは90%が仏教徒の国です。ある日、私は一枚でも多く今の状況を残すために朝早く起き、散歩をしていました。そこで見かけたのは、とても立派な仏像が何体も置いてある、仏像の楽園の

ような場所でした。そこを通る時に、悪魔が私にこういっているような気がしました。「ここは私の世界だ。所詮日本から来た、ちっぽけなお前なんかが、たかが10日間ここにいたところで、何も変わることはない。無駄なことだ。」それを聞いた時に、私の心に、虚しさと、悲しみがやってきました。しかしその時、私は自分のできることを忠実に行い、神の大きな祝福を勝ち取ったこのルツの姿思い出しました。私たちはたとえ小さくても、今行つてることが結果が目に見えないちっぽけなことであったとしても、神から与えられたことを忠実に行うならば、そこに、神の栄光が現れるのです。ルツが忠実に自分のできることをし始めた時のように、世界を変える力のある神の計画が大きく動き始めるのです。この経験を私は現地において2回もメッセージとして語ることができました。私はこのメッセージを語る時、スキットの時を除き他の全ての時は写真やビデオを取ることに徹底して時間を使っていました。ステージに上がることも他の人よりも圧倒的に少なく、準備した証も3つありましたが、全て披露することなくアウトリーチを終えました。このメッセージを通しミャンマーの人たちにどのような影響を与えることができたのかはわかりませんが、ある人に、「とても良い内容だった。今いる人たちの励ました。」と言う言葉を聞くことができました。

今世界的に「家庭の回復」がとても重要なキーワードの一つとなっています。日本においても、またミャンマーにおいてもそうです。私はニュージーランドにおいてこのことの重要性に目が開かれました。しかし、そのことを教えてくれたニュージーランドにおいても同様だそうです。神様の恵みによって、僕は心から素晴らしいと言える女性と結婚することができました。これは、神様が私たちに与えてくださった私たちの治めるべきもっとも中心的かつ基本となる場所です。私は私に神様が与えてくださったこの家庭を治め、この家庭を中心に、神の栄光を表し、神の国を広げる働きに召されていけると言う確信を、このアウトリーチでつかむことができました。





# 「ミャンマーの光と絶え間ない喜び」

金子 言葉

はじめに、今回私たちチームをもてなし続けてくださったザム先生を初め、Trinity Church や Happy Family、出会った全ての皆さん、そして伊藤雄基君に心から感謝の気持ちを伝えたいです。私は、90%が仏教というミャンマーにあっての彼らの飢え渴き、臨在に満ちた礼拝、賛美の力、もてなしの心に、初めから終わりまで本当に感動と感謝しかありませんでした。彼らの温かい心、純粹で美しい姿に胸を打たれました。今回出会った方々一人一人が、ミャンマーの光でした。

学院の上履きのまま出発という、ただ笑うしかない状態から私のミャンマーオウトリーチは始まりましたが、この上履きで過ごす旅は最高に快適で、これが御心だったのだと今は思えます。5時間かけて帰ってきたバスに携帯を忘れもう一度バスに戻り無事に見つけ出した時は、そのバスが再出発する5分前でした…！神様はこんな私をいつも全力で守り、好意を注ぎ続けてくださいました。

3日目、私は自分の弱さや問題に目を留めてしまい、喜べなくなってしまいました。孤独に襲われて、両親ととりなしチーム女性3人に連絡しました。その時改めて教えられたことは、ミャンマーの一瞬一瞬を感謝し楽しむこと、自分の弱さを受け入れ、神様の愛と憐みを受け取り喜びを選択することでした。祈っているとみことばが心に浮かんできて、口で宣言し始めました。

「わたしはあなたに命じたではないか。強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。あなたの神、主が、あなたの行く所どこにでも、あなたとともにいるからである。」(ヨシュア記1章9節)

朝、目を覚ますと母から同じみことばが届いていました。自分がどれだけ愛され祈られているか実感せずにいられませんでした。みことばの偉大さと、とりなしの祈りの力を改めて知りました。それからの私は、喜びと笑い、賛美に満ち溢れて、どんな場所でもどんな奉仕でも、毎日元気いっぱいに精一杯行き過ごすことができました。そして、チームの皆がこのままの私を受け入れてくれたことが、自分自身の更なる解放に繋がっていったと強く感じます。ミャン

マー・アウトリーチという特別な時、場所ではありましたが、私自身が感じること、受け取ることは日常の信仰生活と同じものでした。

最後の日曜日、ミャンマーの皆と合同で賛美礼拝奉仕に参加できたことは、私にとって特別な経験、思い出となりました。全てミャンマー語だったので携帯を見ながらになってしましましたが、ただただ嬉しくて幸せで、飛び跳ねずにはいられない最高な時間でした。今回の旅は、「賛美は私の喜び」と今まで以上に感じる特別な機会となりました。

ミャンマーの地で、チーム一人一人が本当に主にあって輝いていました。皆の姿を見ているだけでニコニコ出来て、皆の存在が愛しくて、そのように感じられる神の家族、仲間が出来たことが私は本当に嬉しいです。そして何よりも、神様が私たちをミャンマーに導き、完全に守り、私たちを通して力強く働いて下さったことに心から感謝します。チーズーティンバーデー！（ありがとう！）



# 「ミャンマーの人々の力強さ」

井上 貴志



今回のミャンマーへのアウトリーチは想定外の出来事ばかりでした。初日から飛行機の乗継がうまくいかず、タイに一泊することになりました。(個人的にはタイへ行ったかったので嬉しかったのですが・・・) また、それ以降も、急なスケジュール変更があったり、パスポート入りのポーチをホテルに忘れた人がいたり、携帯をバスに置き忘れてきた人がいたり、たびたび停電が起こったり、数えればきりがありませんが、想定外のハプニングがたくさん起きました。

しかし、そのような状況の中でも誰一人文句や不満を言わず、むしろその状況を楽しむことができました。思い返すと、このアウトリーチ期間中は賛美や祈りで満ち溢れていきました。神様が私たちチームとともにいてくださり、一人一人の心を守ってくださったのだと思います。

私にとって「アウトリーチ」自体が初めての体験でした。どんな10日間になるのだろう…と不安に思う部分もありましたが、とにかく! 毎日が楽しく充実した日々を過ごすことができました!

滞在中は主に Happy Family という聖書学校の学生や牧師先生、またご家族の方が心暖かく仕えてくださいました。そのおかげで何一つ不自由することもありませんでした。また、様々な場所に連れて行っていただき、奉仕する機会をたくさんいただきました。チームからは賛美、証、スキット、チルドレンミニストリー、タンバリンダンス、メッセージといった奉仕をさせていただきましたが、何よりも礼拝時のミャンマーの方々の力強さに衝撃を受けました。教会の規模や、楽器の良さではなく、礼拝する人、一人一人の「主に飢え渴く心」、「主を慕い求める心」が大事なんだと改めて思わされました。訪れた教会全てが聖霊様に満ち溢れた素晴らしい場所でした!

ミャンマーは人口の90%が仏教徒で、政府による仏教徒以外の宗教の迫害もあるようです。(現時点ではイスラム教徒の迫害) 一方でそのような状況下であっても靈に燃えた教会があることや、熱心な信徒がたくさんいることにすごく励まされました。神様は確実にミャンマーで働かれています。5年後、10年後、「ミャンマーはどうなっているんだろう・・・」と考えると本当にワクワクします! ミャンマーが「仏

教の国」から「キリスト教の国」に変えられることを信じます! その姿を、再度ミャンマーへ行って、自分の目で見たいと思いました。

10日間通して一生懸命仕えてくださった先生方、HappyFamily の学生たち、トリニティチャーチのみなさん、支え励まし合ったチームのみんな、日本で祈ってくださった方々、そしてこのアウトリーチ期間中も絶えず働いてくださった神様に心から感謝します。





# 「ミャンマーでの時間は私の宝物」

井上保恵

主の御名をほめたたえます！！

この海外アウトリーチでは、初めから終わりまで神様の恵みと感謝を感じる素晴らしい日々を送りました。私たちを受け入れてくださったザム先生、家族の方々、ハッピーファミリー神学校の先生方、生徒の皆さん、トリニティーチャーチの皆さん、各教会の皆さん。そして、私たちを思い祈ってくださった皆様に感謝します。また、ここで証出来ること感謝します。

私にとって、初めてのアウトリーチでした。ミャンマーはどんな国なんだろう？仏教90%の国ってどんな雰囲気なんだろう？など期待と不安でいっぱいの気持ちでアウトリーチはスタートしました。

ミャンマーでお世話になったザム先生は、私たちを様々な場所に連れて行ってくださいました。トリニティーチャーチ、聖書学校、いくつもの開拓中の教会、スラム地区、重い皮膚病患者のいる病院やその家族がいる村の教会、ミャンマーの聖書を翻訳した方の石碑があった場所、ミャンマーの有名なお寺など観光地。10日間ハードなスケジュールでしたが、本当にリアルなミャンマーを見せてくださいました。私は、色々な街や集会を周る時、貧富の差に激しさがあることに驚きました。首都や街の中心はやはり栄えており、人も綺麗です。しかし、少し車を走らせると街の景色、人の雰囲気も変わっていくのです。さまざまな場所を周る中で、変わらないものがひとつありました。集会に集う皆さんのです。大人も子供もキラキラと輝いているんです。私にとってその目の輝きと、眼差しは印象的でした。確かに生活は苦しいかもしませんが、心が本当に豊かなんです。そして賛美はどの場所も本当に力強く、主を求める礼拝者がたくさんいました。

こんなことがありました。ミャンマーは停電が頻繁に起こります。ある集会の賛美中に停電が起きました。マイクも楽器も全て止まりました。しかし、手拍子が始まると賛美の流れが止まらないんです。停電が起きていないかのように賛美は続き、聖霊の流れがどんどん強くなるのを感じました。その時、すごく自分の体が

熱くなりました。本当に神様が働かれていているのだと感じました。私は仏教国であるミャンマーの方達が、大胆に主を語り、主を賛美していることに感動しました。

このアウトリーチで、ミャンマーの方達を励ますつもりでしたが、正直何もできなかったです。逆にミャンマーの方達から主の素晴らしさ、恵みを沢山受け取らせていただきました。

神様が出会わせてくださったこの出会い、アウトリーチの時間は私にとって宝物となりました。そして、これから的人生において、このアウトリーチは大きな一歩になったと思います。ミャンマーという国との出会い、ミャンマーの方との出会い、奉仕でのタンバリンダンス、チルドレンミニストリー、どれもこれも神様が私自身に与えてくださったチャレンジとチャンスでした。この気持ちと、思いを忘れずに次のステップに繋げていきたいと思いました。主に心から感謝します。



# ミャンマーアウトリーチ 全行程記録 (2019年7月12日(金)～22日(月))



## ●1日目 (7/12) (金曜日)

●学院をAM6時に出発。タイで乗り換えミャンマーに向かうはずが、航空会社のミスで乗継がうまくいかず。結局、1日目はミャンマーにたどり着けず、タイで一泊することになった。井上夫妻がたまたまタイの通貨を持っていたので、暑い空港内ですぐに水を買うことができ、また、感謝なことに安いホテルがすぐに見つかった。初日からトラブルが発生したが、誰一人文句を言うことなく、ミャンマーチームのアウトリーチが始まった。

## ●2日目 (7/13) (土曜日)

●ようやく目的地、ミャンマーに到着。到着が遅れたにも関わらず、笑顔と花束で歓迎してくれた。夜はユース集会。ミャンマーの贊美はとても力強く、圧倒された。そして、1時間、チームに時間をいただきミャンマーでの奉仕がスタート。タンバリンダンス(紀子先生、結基兄、保恵姉、貴志兄によるマイティウォーリア)、贊美、証(貴志兄)、スキット(真実兄、貴志兄、裕美姉、保恵姉、言葉姉によるリディーマー)。その後は待ちに待った夕食。ミャンマー料理…うまい！うますぎる！！ホテルに戻り、兄弟達がバルコニーで贊美の練習をしていると、同じホテルに泊まっていた日本人とミャンマー人の女性が贊美を聞きつけてやってきた。一緒に贊美したいと…贊美の力、すごい。

## ●3日目 (7/14) (日曜日)

●初の日曜礼拝。礼拝前は二手に分かれてチルミニと聖書研究(秀和兄)。チルミニでは裕美姉と保恵姉がAlma先生に教わったRed Cross(救いのミニストリー)を実施。純粋な子どもたちの眼差しが熱かった。礼拝では姉妹達が「さくらさくら」を浴衣で披露。昼にイグナイト・ワーシップ・センターで奉仕。リディーマー、証(裕美姉)、メッセージ(結基兄)。夕拝にて利文先生によるメッセージ、および証(賢兄)。

## ●4日目 (7/15) (月曜日)

●午前中はHappy Familyにて利文先生による講義(ダビデから学ぶリーダーの心)。生徒達との交わりで椅子取りゲーム。白熱し過ぎて椅子が一つ破損。午後は小さな家の教会で奉仕。リディーマー、証(紀子先生)体力が残っている人は観光で、へびが祀られている寺院へ。行ったメンバーはそれ以降、急に疲労が表面化。金縛りにあう兄弟も。靈的戦いがあったのだろう。自由時間に何人かの学生はレンタルバイクで街へくり出し、初ミャンマーでヘアカット。夜はザム先生の娘さんの12歳の誕生日パーティー。贊美によるお祝い会だった。日本チームからも「君は愛されるため生まれた」をプレゼント。

## ●5日目 (7/16) (火曜日)

●午前中マンダレイヒルへ観光。そこで、ミャンマーの伝統的な化粧品「タナカ」を初体験。タナカは日焼け止め、にきびの防止、お肌全般に万能に効果のある天然化粧品のこと。ミャンマー人のほとんどが顔にタナカを塗っている。昼からスラム地区でのチルドレンミニストリー。(Red Cross)この地区では98%が仏教徒。贊美、リディーマー、チルミニを行い、チルミニでは多くの子供達が神様に従う決心をした。帰りにスーパーマーケットに立ち寄り、翌日のカレー作りの買い出し。これまで仕えてくれているHappy Familyの学生に対して、日本チームがカレーをふるまうことになった。

### ● 6日目 (7/17) (水曜日)

●重い皮膚病を患っている患者が隔離されている村でのミニストリー。タンバリンダンス、賛美、リディーマー、証(保恵姉)を。最後には、その場にいた全員がイエス様を主と信じると宣言。この皮膚病を患っている患者は世間から隔離されるらしい。患者だけじゃなく、その家族も。今日訪れた村には10万人の患者がいるとの事。その後、実際に患者が入院している病院へ寄った。当初、中に入ることは許されなかったが、メノーラ氏の強い勧めで、「喋らない、患者に触らない」という条件で病院内に入ることができた。しかし、その場にいた看護師に話を聞くと、触っても喋っても平気とのこと。私たちは賛美し、患者一人一人に手をおいて祈ることができた。完全な癒しがあるように。あとから Happy Family の生徒にその事を話すと、そこまでできたのは本当に奇跡だったそう。夕方は Happy Family の生徒と一緒に U Brain 橋に観光。その後、日本チームでカレーをふるまつた。このカレー作りの最中に、今後通訳として同行してくれる雄基兄と合流。

### ● 7日目 (7/18) (木曜日)

●午前中は Happy Family にて利文先生による講義、および証(言葉姉)。午後はジョイ・プリスクール(保育園)でのチルミニ(天国への切符)。その後、マンダレイ王宮を観光。夜は Happy Family にて日本チームの送別会をしてくれた。生徒から賛美、ダンス、民族舞踊、スキットのプレゼント。“お返し”ではないが、マッスルポーズゲームをした。最後は「全てに感謝しよう」や「からし種」をみんなでミャンマー語で賛美し、日本チームと Happy Family の生徒の間にこれまでにない一体感が生まれ、最高に盛り上がったひと時となつた。

### ● 8日目 (7/19) (金曜日)

●インワ町の教会にて奉仕。リディーマー、賛美、チルミニ(RED CREOSS)、メッセージ(真実兄) 午後から、ジャドソン宣教師が囚われていた牢獄があった場所へ。彼は聖書をビルマ語に翻訳した人物であるが、イギリスとビルマとの間に戦争が起こった時、彼はイギリス人のスパイと間違えられ投獄された。夕方から首都のネピドーへ移動。片道4時間半のバス旅で、チームのメンバーにも疲れが見え始めた。

### ● 9日目 (7/20) (土曜日)

●午前中はネピドーの教会にて奉仕。この教会では Happy Family の卒業生が奉仕している。賛美、リディーマー、証(紀子先生)、メッセージ(利文先生)、さくらさくら。昼ご飯を食べた後、衝撃の事実が発覚。真実兄がチェックアウトしたホテルにパスポート入りのポーチを置き忘れてきたようだ。真実兄はホテルへポーチを取りに行くことになったため、一時彼とは別行動となつたが、無事ポーチを手にした真実兄と再び合流できた。しかし、事件はこれで終わりではなかつた。私たちは4時間半のバス旅を経て、ネピドーからマンダレイに帰ってきた。ホテルについた時、言葉姉から発せられた言葉はポーチ事件以上の衝撃だった。「携帯が・・・ない・・・」。鞄をくまなく探しても見当たらない。どうやらどこかに忘れてきたらしい。みんな必死に祈つた。一抹の望みをかけてバスターミナルへ急いで戻つた。そして、ネピドーへ引き返す発車寸前のバスの車内で無事携帯を発見することができた。神様、どうか残り1日をお守りください。

### ● 10日目 (7/21) (日曜日)

●ミャンマーでの2回目の日曜礼拝、そして最後の奉仕。14日同様、礼拝前は二手に分かれチルミニと聖書研究(真実兄)。チルミニでは「子どもの価値」というインナーヒーリングに関するミニストリー。礼拝奉仕では、ザム先生の計らいで、日本チームと Trinity Church の合同チームによる賛美(日本チームからは賢兄と言葉姉が代表して参加)及びメッセージ(結基兄)。Happy School の生徒、Trinity Church の信徒に別れを告げて空港へ。長いようであつという間の、本当に充実したアウトリーチが終わった。ずっと懸念していたタイでの乗継もうまくいった。

### ● 11日目 (7/22) (月曜日)

●新千歳空港に午前8時39分到着。シンガポールチームと再会。蒲谷兄弟とは千歳でお別れです。悲しい~。皆さんお疲れさまでした!主に栄光!

## Myanmar Outreach Report 2019

ミャンマー  
アルバート



男の中の男、サム先生



最終日のランチ



靈的勝利のマイティウォーリア



ハンセン病棟にて



イエス様を信じる子供たち



雄基くんがチームの一員に



マンダレーの王宮



マッチョマンゲーム



カレー作りは喜ばれだ！



油注がれたメッセージ



# 「主に栄光を帰し、主の栄誉を告げ知らせるシンガポール。」

## 坂本清憲

今回、私は、家族と共に、学院生（8名）を引率する形で、7月12日（金）～22日（月）の10日間、シンガポールへアウトリーチへ行ってきました。シンガポールへ導かれた緯としては、TWR(Trans World Radio) の日本宣教代表であるパク・パトリック先生から、数年前から、「シンガポールに来て、日本の現状や福音伝道活動の報告をしてほしい。」と招かれ、日々、主に導きを祈り求めているなかで、時が満ち、シンガポールへの扉が開かれました。今回のアウトリーチは、私にとって、大きな喜びからはじまりました。

シンガポールは、アジアの中心（ハブ）とも言われる国であり、4つの民族 [ 中華系 (74%)、マレー系 (13%)、インド系 (9%)、その他 (4%) ] が、共生する国家で、それぞれの文化や宗教のあるなかで、多様性を受け入れながら、それぞれのコミュニティを形成している姿が、印象的な都市でした。

7月16日（火）に招かれ、予定されていた、TWR シンガポールチームとの祈り会では、私が、日本の現状と活動の報告をさせていただきました。報告した内容は、少子高齢化が進む日本での今後の教会のあり方や次世代リーダーの建て上げについての話をしてから、**第二歴代誌 7章 14節「わたしの名を呼び求めるわたしの民がみずからへりくだり、祈りをささげ、わたしの顔を慕い求め、その悪い道から立ち返るなら、わたしが親しく天から聞いて、彼らの罪を赦し、彼らの地をいやそう。」**という、御言葉から、TWR チームとアウトリーチチームがひとつとなり、主の前にへりくだり、ただ主の御顔を慕い求める祈りをささげ尽くすなかで、圧倒的な主の臨在があり、そこに力強い聖霊の力の注ぎが起こされました。この祈り会を通して、主から受けた預言的なビジョンのひとつは、シンガポールは、主にあって敵に向かって威力を現す島々（国）であり、アジアの福音宣教にとって非常に重要な城壁であることを受け取りました。

**イザヤ書 42章 12節～13節「主に栄光を帰し、島々にその栄誉を告げ知らせよ。主は**

**勇士のようにいで立ち、戦士のように激しく奮い立ち、ときの声をあげて叫び、敵に向かって威力を現す。」**

今後も、シンガポールの、主にある教会が、更に力強く建て上げられていくことを祈り求めていこうと思いました。

また、今回、CFNJ 聖書学院の学院生と共に、主の働きをすることができたことは、光榮なことでした。慣れない国で、不安もある状況のなかで、いつも良い態度で、すべての人に対して、従順な彼らの存在は、シンガポールの地域教会や町に、大きなインパクトを与えていました。そのような、チームミニストリーの麗しさを通して、ひとりの方が、御言葉を送ってくださいました。

**詩篇 65 篇 9節～11節「あなたは地を訪れ水を注ぎこれを大いに豊かにされます。神の川は水で満ちています。あなたはこうして地を整え人々の穀物を備えてくださいます。地のあぜ溝を水で満たしその畠をならし夕立で地を柔らかにしその生長を祝福されます。あなたはその年に御恵みの冠をかぶらせます。あなたの通られた跡には油が滴っています。」**

今回の、アウトリーチは、まさしく主の大いなる豊かさと祝福のなかで、イエス様の通られた跡を歩む日々でした。10日間、いつも共に働いた、妻と娘と学院生に心から感謝します。また、現地で、私たちチームを快く受け入れキリストの愛を現わして下さった、すべての方々に、主の平安がありますように。最後に、すべての栄光を主に帰し、アウトリーチの報告を終えたいと思います。



# 「神様の恵みと祝福にあふれたすべての出会いに感謝します」

坂本 麗名



ハレルヤ！主イエスさまの聖名を賛美いたします。たくさんの人々の協力と祈りと支援により、このたび、シンガポール・アウトリーチチームとして、1歳7ヶ月になる娘の実珠果（みしゅか）とともに参加できることを、心から感謝します。

シンガポールという国は、たくさんのものが一つとなっている多民族国家です。今回のアウトリーチで出会った人々は、さまざまな文化、民族、そして宗教をもつ人々でしたが、イエス・キリストを通して『天と地にあるすべての家族の、「家族」という呼び名の元である御父（エペソ人への手紙3章15節）』を父とする私たちキリスト者にとって、大変尊い人々でした。また、訪れた街のさまざまな場所で、まだ主イエス様を知らないけれど、唯一まことの神を求めている人々の叫びが聞こえるようでした。シンガポールには、中国系・インド系・マレー系・ユーラシアン・プラナカン（シンガポール海峡地域出身の人々）が暮らしているので、チャイナタウンやリトル・インディア、カトンのような歴史あるプラナカン地区やマレー系の人々が暮らすカンポン・グラムといったムスリム系コミュニティーなどが点在していました。その街の様子は、それぞれの民族の伝統が色濃く残り、さまざまな偶像や寺院もたくさんあります。そのような地域にも、唯一まことの神様を礼拝し、互いに愛し合うキリストの体である教会が存在し、その教会が、『地の塩、世の光（マタイの福音書5章13節、14節）』として地域の人々に神様の愛と聖霊の力あるいは力を流し出している様子に感動しました。

この経験を通して、伝道、またアウトリーチという働きは、私たちキリスト者の「存在」を通して、人々がキリストと出会うことだと強く思われました。なぜなら、この地上では、このアウトリーチの時しか会えないかもしれない人々との限られた日々の関わりを通して、私たちがキリストの愛と誠実を示す時、たとえ文化・宗教が異なっていても、人々は心を開き、祈りを私たちに求めてきてくれたからです。そのような聖霊様の力強いご臨

在のなかで、私たちはイエス・キリストの御名により、出会わせてもらった人々のために祝福と守りを祈り、彼らに聖書のみことばを分かち合うことができました。生ける力ある神である主に、心から感謝し、聖なる御名をほめたたえます。

また、個人的な証しになりますが、当初、アウトリーチという尊い神の国の働きに、幼児を連れて参加することには不安がありました。しかし、主に祈るなかで『私と私の家は主に仕える（ヨシua記24章15節）』というみことばが思いにうかび、大きな平安と喜びが与えられました。「主が喜んでくださるなら、ぜひチャレンジしたい」と思い、チームリーダーでもある夫の清憲さんと共に祈りながら準備をすすめました。アウトリーチ滞在先では、学院生のチームの皆さんと、心からの愛で娘を思いやって遊んでくださいり、何一つ心配することはありませんでした。アウトリーチ期間中の日々のなかで、チームのおひとりおひとりが、それぞれに与えられている信仰の種を用いて、みことばを読み、祈り、全力で喜び、出会った人々を愛し共に交わって主に栄光を帰している、そのような姿を小さな娘に見せることができたことは、私たち家族にとって、大きな宝です。本当にありがとうございました。

最後に、アウトリーチのために多大な協力と祈りと支援をささげてくださった神の家族の皆様に、心から感謝いたします。皆様のうちに、『あらかじめ備えられている神様の良い計画（エペソ人への手紙2章10節）』が豊かに成就し、キリストの体である教会が愛のうちに力強く建て上げられ、神の御国が全世界で前進しますように！





# 「主のみこころを求めて」

敦賀 美香

私はシンガポールにアウトリーチに行きました。海外のアウトリーチは初めてでした。マレーシアのクアラルンプールを経由して夜8時半頃にシンガポールのチャンギ空港に着きました。ついたときにTWRというラジオ伝道している方でピーターさんとハンセンさんという方があたたかく迎えてくれました。翌日からも滞在中はピーターさんが私たちのチームをご飯に誘ってくださいり、シンガポールの美味しいご飯屋さんに連れて行ってくれました。とても紳士で優しく、キリストにあったリーダーの姿を見る事が出来ました。

日曜日には、中国語と英語の通訳があるアガペ教会に行きました。ゲイランという地名で政府の認可があるマレー系の風俗店などがある地域にその教会がありました。どんな地域や場所でも神の国の拡大のために教会が置かれているのだと思いました。教会の外面は街並みにそつている感じでしたが、建物の中は外側から見たよりも広くきれいでました。私と同年代の子たちは、ユースミニストリーをしているリーダーが多く、弟子訓練がしっかりしているのだと感じました。300人ほどの教会でシンガポールでは、それほど大きくない教会だと聞いて驚きました。

つぎの日に、シティーハーベストチャーチの聖書学校のSOTに行きました。マーケットプレイスに出て行って働きをする、イエス様の3年間の働きと比較しながら大宣教命令を今日の社会で実行するためにはどうしたら良いかという講義内容でした。私も、学院を卒業してからのアウトリーチだったので改めてマーケットプレイスでのキリスト者としての振る舞いや品性の重要性を感じました。

シティーハーベストチャーチの主日礼拝にも参加しました。ものすごく人が多く、コンサートのようなクオリティでした。礼拝後、セルグループに分かれていて、次世代のリーダーを育

していく、セルグループを細かくすることによって、1人1人のケアと人間関係を築いているからこそそのメガチャーチなのだと思います。

シンガポールで出会った人々は、優しくて自分が持っているものを惜しまず捧げるというキリストの品性が伴っていて素敵でした。私が目指す模範を実際に見る事が出来て、人と繋がることが出来て良かったと思いました。日本に重荷を持ってとりなしをしてくれている方と出会うことが出来て、私がこれからしていくことと、日本に必要なことをこのシンガポールの国を通して神様は私に示してくださったのだと思いました。目の前に置かれた課題を忠実に主に従うことにより、主の計画がなされていくということ。主のみこころを求めて成熟を目指して走り抜こうと思いました。



# 「無条件の神の愛、受け取る恵み。」

熊谷 瞳



このアウトリーチで初めての海外に行き、感じたのは神様からの愛が本当に無条件で尽きることなく、神様の恵みも尽きる事なく、神様はこれでもかというほど、ただ一方的に豊かに、豊かに祝福してくださる方であるという事でした。

シンガポールでは特に食べ物がとにかく美味しいくて、ご飯もフルーツもスイーツも全部が美味しいくて、「美味しいなあ」と思って食べているだけで、まわりの人から「美味しいそうに食べるね」「こんな美味しいように食べてくれたら食べさせがいがある」と言われだし、ついにはデボーションの時間にしようとさんから「瞳ちゃんが喜んで食べる姿は贊美だ」とまで言われ、全てが神様からですが、例え自分で稼いだお金で買ったとしても、お金も食事も全て神様が与えて備えてくれているものなので、改めてその事を心に思い起こして、ただ感謝して喜んで受け取るだけで、神様は本当に私の喜ぶ姿を喜んでくださっている事と、恵みを遠慮する必要がない事、喜びを隠す必要のない事をシンガポールでの食事を通して学びました。

また、ピーターさんがひたすらいろんなお店に連れて行ってくださって、ご飯をおごってくださり、私が海老そばのおいしさに感動して食べていたのを見て別の日にほかの海老そばにも連れて行ってくださり、人が好きなものを見つけて「これはどう?」「これもあるよ!」とさしだすのはその人にもっと喜んでほしいという心からの愛に富んだ行動だと感じ、ご飯もすごく美味しかったですが何よりその心がとても嬉しかったです。

シンガポールでの最初の日曜日に行ったアガペチャーチでは、あたたかく歓迎していただき、その日は違う教会の牧師の方がメッセージをされていて、シンガポールでは教会間の壁がなく違う教会の人を招いてメッセージしてもらったり賛美してもらったりすることがすごく簡単にできるという話を聞き、私が日本の教会にそうあってほしいと願う事がもうすでに叶っている状態で、とても感動し希望を持ちました。また、アガペチャーチの礼拝堂に入った時に賛美チームが賛美のリハーサルをしていたのですが、そのリハーサルの時から賛美している間ずっと臨

在が強く臨んでいて、神様からの方的な無条件の愛が強くとめどなく流れ、押し寄せてきて、ただただそれを受けられることしかできず、涙が止まりませんでした。本当にアガペチャーチという名前の通りに神の無条件の愛が流れている教会なのだという事をとても強く感じました。礼拝の後は牧師の方や長老の方々、ユースのリーダーの方達とお昼ご飯をいただき、そこでもいろいろなシンガポール料理をもてなしてくださいり、また一人一人の救われた証を短くていいのでぜひ聞きたいとある長老の方がおっしゃり、証が出来たことと信仰面での深い交わりができたことがとても嬉しかったです。

また、今回伝道の予定は元々なかったのですが、観光街のオーチャードという街で買い物した際にラッキープラザというビルの上の階に行けば行くほど靈的な空気が悪くなっていくのを感じた人が何人もいて、土曜日にシンガポールのバイブルショップでトラクトを買い、ラッキープラザへ伝道しに行くことになったのですが、その靈的な悪い空気が流れている原因は、女性が男性を接待するような飲み屋さん等が上の階に行くに従って多くあった事で、そこで働いているのであろう女性達を見た坂本先生が「そういったお店で働く女性は父親からの愛をちゃんと受けられなかつた人が多い」と言っているのを聞いて、私もそういうお店で働く事を考えていた時期もあったので、そこにいる人たちに天の父の愛を伝えたいと思いましたが、自分の中にまだ癒されていない部分があるのを感じ、癒すことはまだできないのだと自分の今の立ち位置を改めて実感しました。





# 「アウトリーチは素晴らしかった！」

## 永松 ジュリア ユカリ

今回のアウトリーチは初めての海外アウトリーチでもあり、初海外でした。とても良い経験でした。シンガポールに行って現地の人たちの話を聞いて、すごく日本に似ている国だと思いました。

私が一番印象に残ってことは TWR の方たちの日本に対しての気持ちでした。祈り会の時は会場の外にいても本当にあそこにいた人たちがどれほど日本を思っているのかが伝わってきました。私ももっともっと日本のために祈りたいと思いました。

そして次はピーターさんでした。今回アウトリーチ中ずっと私たちを案内してくれた人です。ものすごくいい方でした。自分のお仕事も毎日忙しいのに、私たちのために仕事の後に私たちをいろんなところに連れてってくれました。本当に感謝しかありませんでした。本当にこんな人になりたいと思いました。

そして今回は SOT という聖書学校やシティーハーベストというメガチャーチに行くこともできました。本当に素晴らしかったです。神様に感謝しかありません。今回自分が海外アウトリーチに行けたのも神様が備えてくださった人たちがいたからこそ行けました。本当に神様とその方々に感謝です。素晴らしいアウトリーチでした。



# 「シンガポールで主から受け取ったこと」

結城 勝吾



日本から出ることは、初めての体験。たくさん的人が祈り支えてくださっている。感謝である。今まで日本から出ることは、不安しかなかった。一番はコミュニケーションの壁。しかしその考えを改める必要がある。「言語(言葉)」の壁は、案外なんとかなるものなのかもしれない。そしてもっと相手の「言語」が理解できると楽しいのだと思う。

神さまはなぜ人を散らせことばを混乱させたのか。一つの「言語」のままであれば、コミュニケーションも楽であったはず、しかしシナアルの地の人々は、神に勝ろうとした。

「さあ、降りて行って、そこで彼らのことばを混乱させ、互いの話しことばが通じないようによしよ。」(創世記11章7節)

『自分たちのために』、『名を上げる』ために。自分も日本という地で言語に壁がなければ楽である。意識的に聞く必要も、話す必要もないからである。自国の慣れた言語を話すことで、相手に簡単に自分の思いを伝えることができる。ある意味で、「言語」が『自分のために』なっている。しかし「言語」に壁があれば、相手に伝えるために一生懸命になる。相手の気持ちを考え、全ての意識は、「自分」から「相手」に移る。ことばを語るときは、意識を常に「相手」に意識する必要がある。本来であれば自国の言語を語るときも、「言葉」から「ことば」に変化する必要がある。すなわち「彼らのことば(=人のことば)」を「神のいのち」が生きた「ことば」に、神の愛が生きたことばに、そうすれば誤解も争いも減るのではないか。

「初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。」(ヨハネの福音書1章1節)

また現地のピーターさんは、私たちを盛大に楽しませ、そしてもてなしてくれた。細やかな配慮や惜しげも無い心遣いに本当に感謝の一言である。主はいつも御使を私たちに送つてくださる。なぜこれほどまでに行く先々で歓迎してくださるのか。私たちが何かしたわけでもない。奇跡を起こしたわけでもないし、だれかを救いに導いたわけでもない。ただその場において、賛美し証をした。時には、礼拝

に参加しただけだった。しかし、私たちが来たことを喜び、そして祈りあえた。

イエスさまは、いつも何かを計画して、その町々を巡ったわけでもない。その多くは、ただ主に導かれるままに、その町々を巡って一人の人を救いに導き、そしてその人がインフルエンサーとなり、その町全体に福音が伝わった。何か計画して、何かしなければならないリストを作って、福音を伝えたのではないということ。ただ主に従順に、そこに福音が必要な人々がいて、その人々と交わった。何か「ことば」で、パフォーマンスで人々を救いに導いたのではない。ただ聖靈に導かれるままに、そのイエス・キリストという姿、存在が人々を救いに導いたのである。

私たちは、教会で何かできるからいると勘違いしてしまうことがある。そうではなく、ただただそこにいるという“存在”だけが、神さまに愛される理由なのである。だからこそシンガポールの人々は、私たちを歓迎し、迎えて下さった。私たちも“祈ってくださる存在”に感謝し、祈りあいたいと思う。





# 「国境を越えて神の家族「愛」にサンキューラ～！」

藤原 千歌

初めてのアウトリーチは、近代文化の中での教会、TWR、シンガポール国立大学、神学校訪問、クリスチャンとの交わりを体験するものであり、すべてにおいて主の恵みと備えと愛に満ちて感謝のアウトリーチでした。

特に、シンガポール到着時に迎えてくださる予定の先生が変更になり、ピーターさんという信仰深い兄弟が迎えにきてくださいましたが、このピーターさんの与える賜物が素晴らしく驚きと感謝で始まりました。アウトリーチ期間中、そして出発の空港まであふれる愛と恵みを存分にくださいました・・・ほぼ毎日の飲食、交通費、その他観光や道案内など、主にあっての兄弟姉妹をもてなす愛、心を本当に学びました。

シンガポールは、都心部は高い近代的なビルやホテル商業施設が並び、街並みも整えられ、ゴミのポイ捨ての罰金があるので景観が大変美しいです。今年はさらに8月9日の独立記念日と建国200周年に向けて、多くの国旗があちこちに見られ、集合住宅の窓やベランダにも均一に整えられて掲げられていてお祝いムードいっぱいでした。シンガポールの人口の70%強は中華系です。最初に訪問したアガペクリスチャンセンター（教会）は中華系の教会で中華街の中に位置していました。周囲の建物は派手な佛教系の飾りで少々圧倒されつつも、偶像の真ん中に教会が立地しているのは主の尊いご計画であると感じました。外見からは「教会」に見えないアガペ教会でしたが、中に入ると主の温かさに包まれ言葉が違えども主にあっての兄弟姉妹を実感しました。

シティーハーベストチャーチは2万4千人の会員がいるメガチャーチで二カ所に分かれています。2千人は収容可能の礼拝堂は、音を気にしなくても良い地下4階に設置されていて規模と設備が整っており驚きました。

グレース・アセンブリー・オブ・ゴッドも教会が二カ所にあり、それぞれ2千人、3千人の会員のいるメガチャーチです。シティーハーベストチャーチ同様、礼拝堂は規模が大きく設備が整いコンサートホールのようで、音楽が好きな未信者は非常に誘いやすいです！

神学校訪問では、海外からの留学生も多く若者が多いシティーハーベストチャーチの神学校とシンガポールバイブルカレッジを訪問し、仏

教が主流のシンガポールですがキリスト教は2番目に多く（約18%）神学校は日本の神学校よりも社会に溶け込んでいる印象を受けました。

TWRはラジオ伝道をされていて、いろいろな教会から集まる祈り会に参加しました。とにかく日本の回復とリバイバルのために集中して祈って下さり、日本の回復とリバイバルは、世界の神の家族の熱い力強い祈りにより前進し、守られていると心から感謝し大変励まされました。私たち日本人もシンガポールをはじめ、多くの国々の回復、一致、リバイバルのために、なおいっそう、祈らなくては！と心が燃えました！住民の3分の1が外国人で多宗教国家の中でのシンガポールのクリスチャンは一言で「愛」！メガチャーチであろうが小規模な教会や、キリスト教関連団体であろうが、キリストにあっての神の家族には特別に愛を注いでくださった・・・言葉が通じないからこそ御言葉を実感した貴重な体験でした。

「一切のことを、愛をもって行いなさい。」

（1コリント16章14節）

「子どもたち。私たちは、ことばや口先だけではなく、行いと眞実をもって愛しましょう。」

（ヨハネ3章18節）

シンガポールの皆様が同じようにして言ってくださったことは、「CFNJの一人一人は主に選ばれた者であり、みなさんは主の御國を広げ主の御業を、主の栄光をあらわすために、それぞれが主の導きを得て祝福されています！」・・・大変、励まされ信仰が一段と引き上げられました。シンガポールの公用語は英語ですが「シンガポールなり」があります。短い文章の語尾に「ラ～」とつけるのです。キリストにあって与えてくださった、さまざまな愛にただただ、「サンキューラ～」です！！



# 「奇跡の連続のアウトリーチ」

ハンダ ダニエル ケンジ



## 1. 金銭面の奇跡

最初はアウトリーチに行くお金がありました。そして、ちょうどアウトリーチに行く月にパスポートの切れる月でした。その為、最初はアウトリーチに行かない方針でした。しかし、紀子先生の励ましがあり、アウトリーチに行く準備を始めました。その中でいろんな人たちから献金を受けるようになりました。そのおかげで無事にパスポートを更新することができました。またシンガポールに行く費用がほとんど満たされました。また神様からの平安と確信を受けてシンガポールに行く事ができました。

## 2. 内なる癒しの奇跡

僕がシンガポールに行く準備をしていた時、シンガポールの食べ物がほとんど海鮮系である事を知りました。僕はアトピーを持っているので甲殻類のエビやカニが食べられません。特にエビを食べると呼吸困難になるのでエビは絶対に食べられません。その為、食べ物の事を心配しました。しかし、シンガポールチームの人から、海鮮以外にもあるから大丈夫だと言われました。けれども現地に着いたら 7割の料理にはエビが入っていました。みんなが美味しそうに食べている姿を見ているうちに、自分がアトピーを持っている事に対して醜さを感じ始めました。そして、自分の事がいやになりました。しかし、シンガポールチームのリーダーの坂本先生が相談に乗ってくれました。先生と話している中で、自分がアトピーをコンプレックスとして受け止めている事に気付く事が出来ました。また、先生に祈ってもらいました。そのカウンセリングの後、アトピーのコンプレックスから癒されました。

## 3. 出会いの奇跡

神様はこのアウトリーチで、奇跡とも言えるような多くの出会いを与えてくれました。まず、最初に私達が出会った人は、ピーターさんとハンセンさんでした。彼らは僕たちを空港に迎えに来てくれた TWR のグループの方々でした。ハンセンさんは日本に何度も来られていたので、日本語が流暢でした。その為、シンガポールにいるのに関わらず、日本語で普通にハンセンさんと話す事が出来ました。

ピーターさんは、私達シンガポールチームに食事をほぼ毎日ご馳走してくれました。そのおかげで食事の事はほとんど心配しなくて済みました。また、シンガポールに行くきっかけを作ったパク先生。パク先生は以前日本で牧会されていたので、日本語がとても上手でした。パク先生は現在、ラジオを通して伝道する機関、TWR シンガポールの責任者です。そして、彼は月一に日本の為に祈り会をしておられます。彼は日本を愛しておられ、心から日本のリバイバルを望んでいる人です。また TWR に参加している方々の日本にする熱意を見た時、日本の訪問が近づいてきたと感じました。これから、新しい時代が日本に始まる事を確信する事が出来ました。今思うと訪れは近づいたのではなく、すでに神様は日本を顧みられていると信じています。

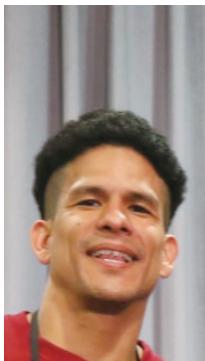
## 4. 言語を理解する奇跡

シンガポールの共通用語は英語ですが、僕は英語があまりわかりません。でもある日シティーハーベストの神学校に行った時、通訳用のラジオを渡されました。ラジオ無しで授業を聞くように示されたので、僕はラジオ無しで講義を受けました。僕は講義の 6 割理解する事が出来ました。また、土曜日にシティーハーベストの礼拝に参加したら、牧師先生のメッセージを 7 割理解する事が出来ました。また日曜日の礼拝も同じでした。本当に主の恵だったとしか言えません。

## 5. 祈りの答え

僕はアウトリーチで多くの奇跡や不思議を見たいと望んでいた為、アウトリーチの前に断食と祈りに専念していました。そして、神様はこれらの奇跡によって僕の祈りを答えてくださいました。ハレルヤ！主よ、あなたの御名を讃めたたえます。そして感謝します。アーメン。





# 「シンガポールで学んだこと」

## 松元一

私は海外に行くのがほぼ初めてでしたが、シンガポールに行けたことは本当に自分の益となったと思います。何故かと言うと、シンガポールはとても裕福な国であり、今世界でも最も成長している国の1つだからです。そんな中で自分が見たものはこれからの自分の神さまのミッションにとても大きく影響すると思います。

### 1. 多民族文化の一致

1つの国の中に大きく分けて4つの人種があり、その中にもっと細かい文化の違う、宗教の違う人たちが共に暮らし、働いているという事実。表面上は争いがなく平和な感じがしたけど、ある教会の人の執りなしのリクエストには『宗教間の平和』がありました。宗教間にはまだ目に見えない争い、戦いがあるのだと思いました。だけど下町の人とか、ホテルで働く人たちの中には色んな人種の人人がいたけど、みんな優しく親切でした。

### 2. 不品行

町はとても綺麗でお金持ちがいっぱいいて煌びやかに見えるけど、少し気をつけて

みてみると売春があり、同性愛が蔓延り、薬物売買が行われている、それらが黙認されている世界がありました。

### 3. ホームレス

街中を歩いている時、ホームレスを1人も見かけなかった。それを調べてみたところ国の政策でホームレスにならないための政策がなされていると書かれていた。でも現地の人に聞いたところ殆どのホームレスは海で寝泊まりしているそうです。そして自分自身も2人の人を見かける事ができたけど、本当に意識して見ないと気づかないくらいでした。



# 「世界が近くなったアウトリーチ」

落合由美



私が印象的だったのは、TWR の働きを見たことでした。TWR の部屋にはカラフルな世界地図があり、世界のあちこちに事務所があり、ラジオを通して世界の約 800 万人のリスナーに福音を伝える働きをしているということでした。そして、驚いたことに、毎月 1 回、日本のリバイバルのためだけに特化して祈っているということでした。シンガポールのクリスチャンの人々は、日本のために熱く祈ってくれています。その現実を見ることができ、一緒に祈ることができて感謝でした。

また、私達日本チームの訪問をとても喜んでくださいり、どこの教会でも、熱く歓迎してくださいました。いろいろな教会・メガチャーチや神学校・国立の大学なども現地の方が案内してくださって、見ることができ、感謝です。

特に、ピーターさんという一人の男性が、ホスピタリティのある人で感動しました。

ピーターさんは、「自分のミッションは交わりです」と、お客様が来たら一緒に食事をするのが自分の役割と言い、日本からクリスチャンが来ることは滅多にないから、私達日本チームと一緒に食事ができることを特権のように思ってくださっていて、本当に嬉しそうに私達をもてなしてくださいました。

私達クリスチャンは王の娘・息子なのだ、というアイデンティティの回復の思いを与えられました。また、同時に、ピーターさんの姿を見て、人々に仕える姿勢を学びました。ピーターさんには、本当に感謝です。

シンガポールは美しい国でしたが、その裏ではいろいろなことがあることも感じました。ちょうど、国の独立記念祭のリハーサルをやっているのを見ることができ、パレードの中で、戦車やミサイル・兵士の姿を見た時には、日本ではあまり見られない光景で驚きましたが、シンガポールの人々は、それを誇りに思っているようでした。また、空港でも警備員らしき人がピストルを腰に下げ、普通に歩いている姿を見かけました。さまざまな人種が暮らすこの国の平和は、こうして保たれているのだと思いました。平和に対する感覚が日本とは違うと感じましたが、国際的にはその方が多いだろうと思います。平和はただじゃない!と認識を改めました。

今回の海外アウトリーチに参加することで、シンガポールの教会やクリスチャンの人々に出会い、クリスチャンは国々の垣根を越えて、主の働きのために、福音を伝えるために、ひとつなのだと感じています。そして、今までよりも世界を近くに感じています。



# シンガポールアウトリーチ

## 全行程記録（2019年7月12日（金）～22日（月））



### ●1日目（7/12）（金曜日）

●早朝 5:15 学院B教室集合・荷物積み込み・賛美・祈り後、出発～新千歳空港へ。9:30 頃出国審査を経て搭乗。pm4:30 頃マレーシア・クアラルンプール到着。乗り換え待ち時間約 2 時間。空港で軽く夕食。pm6:50 頃クアラルンプール出発。約 1 時間でシンガポール・チャンギ空港到着。出迎えてくれたピーターさんとハンセンさんに感謝！ピーターさんから夕食の差し入れ。日本語の地図も用意してくださった。ホテル着後、ミーティング、解散。

### ●2日目（7/13）（土曜日）

●朝8:00頃デボーション。賛美・エペソ 1:1～14のシェアと祈り。朝9:10、シンガポール最大のモール VIVO へ。朝食、必要な日用品などを購入。夕方、ピーターさんがホテルに迎えにきてくださいり外出。バスからチャイナタウンが見える。下車してシンガポールリバーを渡り、トマス・ラッフルズ公園へ。ピーターさんとレストラン「クリケットクラブ」へ。2階テラス席で、建国記念パレードの練習を見ながらティータイムの後、1階のレストランで食事。ピーターさんがごちそうしてくださいり、「お客様が来たら一緒に食事をするのが自分の役割。日本のクリスチャンが来るのは滅多にないことなので、一緒に食事できるのはとても嬉しい」と。その後、マリナーズベイやマーライオンの見える観光スポットへ。夜 11:30 頃ホテル帰着。

### ●3日目（7/14）（日曜日）

●アガペ・クリスチャン・センターへ。礼拝では、日本チームで挨拶と賛美をさせていただいた後、教会の人々が日本チームのために祈ってくださいった。礼拝は英語と中国語で「あなたは熱いか冷たいか、どっちかであってほしい」というメッセージ。礼拝後はリーダーズミーティングにて昼食。牧師先生や教会のリーダーの方々と交わり、各自短く自己紹介と証。教会の皆さんには私達の話に熱心に聞き入ってくださいった。アガペ教会から教会のロゴマーク入りのキーホルダーを頂き、私達も日本からのおみやげを渡す。その後、観光。暑い国なので、各店のテラス席の中を通行人が通る光景に驚く。夕食後帰着。

### ●4日目（7/15）（月曜日）

●朝 6:34 デボーション。エペソ 1:15～2:16。その後シティ・ハーベスト・チャーチへ。なおみさんが窓口となり、日本語通訳付きの授業を受講。ボビー先生によるマーケットプレイスでの伝道・宣教の実態が語られた。けいこさんの案内で建物を見学。屋上には庭と洗礼槽。地下には、数千人入れると思われるコンサートホールのような礼拝堂。テレビカメラも完備。その後、街のフードコートで食事。ドリアンにもチャレンジ！初めてシンガポールの電車に乗り一旦ホテルへ帰る。夕方、バスで下町へ。仲見世通りを見学。フードコートで夕食＆周辺で自由行動。夜 10:30 頃ホテル帰着。

### ● 5日目（7/16）（火曜日）

●午前中はお土産を買いに行く。夜はTWRの事務所へ。いろいろな教会からクリスチヤンが集まっている。初めにパク先生から TWR について説明。TWR はアメリカに本部を持つクリスチヤンラジオ局で、世界のあちこちに事務所があり、約 800 万人の人々に福音を伝えている。シンガポールでは、毎月 1 回、日本のリバイバルのためだけに特化して祈ってくださっていることを知り、熱い思いを受ける。坂本先生の日本に関するレポート、千歌さんの証、日本チームで賛美し、シンガポールの方と日本チームで一緒に祈る。交わり後、日本からのお土産を渡し、近くのフードコートでティータイム。ピーターさん曰く、祈り会後のティータイムの楽しみがシンガポールスタイルなのだと。pm11:45 帰着。

### ● 6日目（7/17）（水曜日）

●朝 9:00 デボーション。エペソ 4:1 ~ 16。一人一人に役割があること、ピーターさんの実践から学んだこと、召しにふさわしく歩んでいるか、御靈の一致を保っているか、などを話す。ミャンマーチームのため、シンガポールのため、恵美子さんの癒しのため祈る。マリナー・ベイ・サンズ周辺で昼食後、観光・散策。夜はクリスチヤン・オーナーのヴェロニカさんのお店、「PALM BEACH」へ。ピーターさんご夫妻とお店の方に、日本からのお土産やありがとうメッセージを渡す。喜んでくださった。夜 10:30 頃ホテル帰着。

### ● 7日目（7/18）（木曜日）

●パク先生とお嬢さんの案内で、お嬢さんが通う NUS（ナショナル ユニバーシティ オブ シンガポール）へ。広大な敷地に病院・大学・学生寮・ショッピングセンターなどがあり、敷地内でもバスで移動。勉強するのに整った環境を見せていただいた。その後シンガポール植物園へ。南国の植物を観賞し、アダムフードセンターのフードコートで食事。インド系のお店が多かった。途中でパク先生の知り合いの牧師先生に会い、コーヒーショップへ。電話がつながらなかったのに、歩いていたらバッタリ会えたので、神様の時だったのだ、と。良い交わりができた。午後は SBC（シンガポール バイブル カレッジ）の見学へ。私達日本チームのために、学校概要のビデオやパンフレットなどを用意して、校内を案内してくださった。ここでは修士課程の勉強が中心的。図書室には、皇室で使われていた古い聖書や、英語を中国語に訳したと思われる古い聖書などが展示されていた。最上階は礼拝堂になっており、円い窓が 7 つ。外から見ると蝋燭の火のように見えるようになっている。街でお土産を買い、ホテルへ帰着。

### ● 8日目（7/19）（金曜日）

●朝デボーション。エペソ 5:1 ~ 21。神の時の中に生きる感覚を養うと、神の御心が何であるかを悟ることができる、と。また、街で出会った未信者の人々にトラクトを配ろうという話が出て祈る。ピーターさん、サムエルさん、ハンセンさんと、クリケットクラブで昼食。夕方、ヤシの木があるビーチを散策。海には貿易船がたくさん停泊、日本へ向かう船もここで給油などをするらしい。海の向こうにインドネシアが見える。夜 10:00 頃ホテル帰着。

### ● 9日目（7/20）（土曜日）

●朝デボーション。エペソ 5:22 ~ 33。今日伝道に行く場所が祝福されるように祈る。シンガポールは貧富の差が激しく、ホームレスの人はビーチで寝ることなどがシェアされた。11:00 頃ランチ＆ティータイム。ピーターさんに日本チームのTシャツをプレゼント。とても喜んでくださった。ネットで調べたクリスチヤン書店でトラクトを仕入れ、日本のしおりを挟んで準備、配りに行く。初めて聖書のみことばを読む人がいた。夕方、サンティックシティにあるシティ・ハーベスト・

次ページに続く

チャーチの礼拝に出席。教会が共同オーナーのショッピングセンタービルの最上階が会場で、何千人も入るコンサートホールのよう。一度に入りきれなくて、土・日と2回に分けて礼拝しているそう。日本チームを歓迎してくださる。日本からのおみやげも渡し、地下のフードコートで夕食。日本人のスタッフ、けいこさんの証を聞く。バスで帰ろうとするが、土曜日で、その時間のバスがないことに気付き、地下鉄で移動。シンガポールの夜の地下鉄は意外と安全そう。夜12:00ホテル帰着。おやすみ&帰国ためのパッキング。

### ●10日目（7/21）（日曜日）

●朝8:30頃、ピーターさんの車に荷物を詰め込む。朝食後、グレース・アッセンブリー・オブ・ゴッド教会の礼拝へ。2階に交わりスペースと洗礼槽がある。若者達が思い思いに勉強などをしていて、日本からのお土産を渡すとともに喜んでくれた。礼拝堂は市民ホールや劇場のような造りで、数千人は入りそう。礼拝でも日本チームを紹介・歓迎してくださった。メッセージはダビデとバテシバのところから、誘惑に陥らないように、と。昼食・交わり後教会を出発して空港へ。ピーターさん・奥さんのシャロンさん、ハンセンさんと合流。シンガポール最後の夕食もピーターさんがごちそうしてくださった。毎日のようにチーム全員の様々な必要を満たしてくださり、本当に感謝です！！私達からのささやかなお礼を受け取ってください、「私は皆さん的心に種を蒔きました。皆さんも私の心に種をまきました。」と、奥様と共に、日本チームのTシャツを着て私達を見送ってくださいました。いよいよシンガポールともお別れ。日本とは違う文化が新鮮だった。飛行機は30分くらい遅れて夜7:10頃離陸。約1時間でクアラルンプール到着。待ち時間があるので、空港内を散歩・買い物など。シンガポールドルからマレーシアリンギットに通貨が変わり、お金の価値の感覚が変動。夜11:30頃クアラルンプール出発。日本まで約7時間半。いよいよ日本へ。

### ●11日目（7/22）（月曜日）

●朝8:45頃新千歳空港到着。ミャンマーチームに再会。空港のフードコートで朝食をとりながら、美香さんの卒業お祝い会。・・・そして、アウトリーチ、お疲れ様！！・・・解散。



韓国教会の牧師夫妻と共に

## Singapore Outreach Report 2019



シンガポール  
アルバム



# ミャンマーチームから 感謝を込めて！



ミャンマーチーム

Happy family Bible Training center

Rev.ZamKham Huai & wife

Happy family staff & students

Rev. Daniel & Menorah McCarty

Pastor Swan of Trinity Church

通訳をしてくれた、伊藤雄基兄弟。

私たちを受け入れて下さったミャンマーの教会の皆様。

このアウトリーチの為に、とりなし、祈り、そして

献金して下さった、多くの皆様に。

そして、私たちの愛する主イエス様に、

感謝と栄光をお捧げ致します！



とりなしチーム

# シンガポールチームから 感謝を込めて！



シンガポールチーム

Patrick Park

Shophie Youn

Jonathan Yechan Park

Park Ye Won

ピーター&シャロンチュア夫妻

Hansen Damein Cheong

Joyce Weng

Naomi Lee

川口舞美

藤本けいこ

TWR の皆さん

Agape Christian Centre の皆さん

City Harvest Church の皆さん

Grace Assembly of God の皆さん

Singapore Bible College の皆さん

このアウトリーチの為に、とりなし、祈り、そして

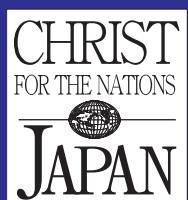
献金して下さった、多くの皆様に。

そして、私たちの愛する主イエス様に、

感謝と栄光をお捧げ致します！



Here we are.  
Made as **ONE**,  
Sent by **ONE**,  
Sharing **ONE** purpose.



宗教法人 アジアキリスト福音宣教会・クリスト・フォー・ザ・ネイションズ日本校

**CFNJ聖書学院**

〒061-3216 石狩市花川北6条5丁目157  
(0133)74-1341・1342 FAX 74-1343  
●HP:[www.cfnj.com](http://www.cfnj.com) ●e-mail:[office@cfnj.com](mailto:office@cfnj.com)

